

(商品別輸出)

2010年12月3日(金)

品目	2009年度 (実績)		2010年度 (見込み)				2011年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%			
			伸び率%	伸び率%	伸び率%						
総額	59,013	▲17.1%	34,096	+25.0%	33,502	+5.5%	67,598	+14.5%	↑ 70,333	+4.0%	
EX 食料品	388	+1.3%	189	+6.4%	215	+2.1%	404	+4.1%	↑ 440	+9.0%	総額の約4割を占める魚介類及び同調製品は、国内の需要が低迷していること、香港、中国、韓国などアジアで引き合いが強いことから、さけ、さば、さば、たら、なまこ、ホタテなどの輸出が好調。
EX 原料品	904	▲4.0%	462	+3.4%	421	▲8.0%	883	▲2.3%	↑ 900	+1.9%	金属鉱及びびくずは、主要品目の鉄スクラップが、住宅着工、建設投資の低迷によりスクラップの発生量が頭打ちになっており、価格は高止まり。これに円高が加わり、輸出数量は前年を大きく下回る。合成ゴムは、海外での自動車生産の高まりにより中国、タイなどアジア向けを中心に堅調に推移。織物用繊維及びびくずは、アジアを中心に堅調な需要に支えられ底堅く推移。
EX 鉱物性燃料	997	▲41.6%	604	+13.2%	475	+2.5%	1,079	+8.2%	↓ 1,013	▲6.1%	新興国の旺盛な需要とドル安傾向から、原油価格は上半期に比べ下半期はやや高めに推移するものと想定されるが、数量ベースでは国内の灯油の需要の減少、国内の精油所の生産調整と円高によって、前年度比減少が見込まれる。
EX 化学製品	6,380	▲1.5%	3,459	+14.1%	3,456	+3.3%	6,916	+8.4%	↑ 7,192	+4.0%	輸出数量は既に金融危機発生前の水準まで回復。中国を中心とする新興国の需要が予想以上に拡大。中東の生産能力増強の影響が懸念されたが、①中国需要の予想以上の拡大、②欧州需要の堅調、③実際の供給量が予想ほど伸びず、などの理由から大きな影響は現れず。
EX 原料別製品	7,536	▲18.4%	4,507	+30.1%	4,047	▲0.6%	8,554	+13.5%	↑ 8,682	+1.5%	全体で見ると、下半期は上半期の水準を下回るが、通年では増加。下半期の鉄鋼は、新興国需要は引き続き好調だが、円高による数量の増勢鈍化、円建て価格の下落により上半期を下回る。銅等の非鉄金属も、下半期は市況上昇に下支えされるもの、円高に伴う輸出競争力の低下により上半期から数量は減少。
鉄鋼	3,033	▲28.2%	1,903	+37.2%	1,684	+2.3%	3,587	+18.3%	↑ 3,687	+2.8%	下半期は円高の影響による輸出ブレーキも懸念されるが、アジアにおける自動車や家電など、鉄鋼需要は好調で、上半期並みの高い輸出水準(数量)が継続。
非鉄金属	1,181	▲7.0%	679	+25.6%	670	+4.6%	1,348	+14.2%	↓ 1,285	▲4.7%	下半期の非鉄金属は上半期比微減にとどまる。アルミニウムおよび同製品は、円高の影響による国内メーカーの輸出競争力低下及び海外メーカーの台頭などにより、下半期は上半期比減少。銅及び同製品も下半期に数量は減少するもの、市況上昇により総額では微減にとどまる。
織物用糸・繊維製品	577	▲17.0%	312	+10.1%	299	+1.8%	610	+5.9%	↑ 627	+2.6%	世界経済の回復に伴い、産業用製品類は急速に回復。ただし織物類については、国内生産撤退の影響による輸出数量の減少圧力が継続。2010年度の繊維輸出金額は、総じてみれば2009年度の減少分の半分も戻せず。
非金属鉱物製品	816	+1.2%	484	+32.0%	351	▲21.9%	835	+2.3%	↑ 895	+7.2%	全体の6割弱を占めるガラス及び同製品は、主要輸出先である台湾、韓国で液晶ディスプレイ向けの引き合いが弱まり、下半期は大きく前年割れ、通年でも微増にとどまる。セメントは、国内余剰分が輸出に回る傾向があるが、2010年度の国内需要は前年並みにとどまるため、輸出も前年並み。
EX 一般機械	10,385	▲26.0%	6,746	+45.9%	6,448	+11.9%	13,193	+27.0%	↑ 13,972	+5.9%	世界的な景気回復を背景に前年度比増加を見込む。アジア向けの需要が好調。原動機はアジア・中東の電力需要拡大により輸出増を見込む。建設用・鉱山用機械についても中国を中心とする新興国のインフラ整備需要、資源開発需要の拡大によって前年度比で増加を見込む。
電算機類 (含周辺機器)	444	▲29.6%	231	+9.0%	246	+6.2%	477	+7.5%	↑ 503	+5.3%	アジアにおける需要が拡大基調にあることから輸出数量は増加するもの、日系メーカーが海外生産シフトを進めている事から数量の拡大は限定的。アジア市場では高機能品の志向が高まりつつあるが、円高の影響もあり、全体としては輸出価格は下落。
電算機類の部分品	1,269	▲14.4%	652	+8.1%	694	+4.2%	1,346	+6.1%	↑ 1,384	+2.8%	IT投資の回復から、アジア向けを中心に輸出数量が増加となる。ただし、電算機類の部分品も完成品と同様、海外での生産シフトが進行しており、危機前の水準には達しないものと想定している。
EX 電気機器	11,697	▲13.8%	6,516	+15.7%	6,600	+8.8%	13,116	+12.1%	↑ 13,500	+2.9%	各国の景気回復基調を受け、半導体が特に増加するもの、映像機器などは海外生産にシフトし、全体では微増。
半導体等電子部 品	3,821	▲6.1%	2,169	+17.9%	2,220	+12.0%	4,389	+14.9%	↑ 4,600	+4.8%	新興国の旺盛な需要で大幅に回復。ただし、液晶TVパネル、PC等の在庫が一時的に増えているため、下半期は上半期ほどの伸びはない。
EX 輸送用機器	13,288	▲21.4%	7,569	+29.6%	7,817	+4.9%	15,386	+15.8%	↑ 16,163	+5.0%	アジア向けを中心に輸送用機器の輸出は堅調。中国向け自動車輸出は金融危機前の水準を超えて過去最高。一方、EU向け自動車輸出は政策効果の反動で減少。
自動車	7,746	▲30.4%	4,552	+36.7%	4,659	+5.5%	9,211	+18.9%	↑ 9,760	+6.0%	中国を中心にアジア向け輸出が大幅増加。米国向けも堅調。一方、EU向けはスクラップインセンティブの終了に伴う反動で減少(多くの国が2009年末で終了あるいは減額)。
自動車の部分品	2,665	+1.4%	1,546	+30.0%	1,579	+7.0%	3,125	+17.3%	↑ 3,437	+10.0%	堅調な海外生産の増加で、2007年度の水準まで回復。米国、欧州、アジア向けすべて堅調。
船舶	2,105	+6.0%	1,111	+17.8%	1,219	+4.9%	2,330	+10.7%	↓ 2,200	▲5.6%	2年以上先の引き渡し分まで契約が進んでおり、計画通りならば2010年度は順調な数字になる見通し。
EX その他	7,438	▲6.0%	4,044	+14.8%	4,023	+2.8%	8,067	+8.5%	↑ 8,471	+5.0%	科学光学機器、写真用・映画用材料などは、いずれも2009年度下半期から回復傾向を継続。なお、「その他」項目は全体の4～5割を再輸出が占めており、再輸出は、おおむね輸出全体の趨勢と類似した推移となる。
科学光学機器	1,766	▲0.4%	1,041	+25.5%	1,005	+7.3%	2,046	+15.8%	↑ 2,118	+3.5%	中国、マレーシア向けおよびEU向けの液晶デバイス(現地組み立て用)が堅調で大幅増加。下半期は、液晶デバイスの価格下落と海外景気減速で伸び率鈍化。

*金額は億円単位を四捨五入

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「―」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している